

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でもいただいた御意見の概要

1 会の名称

第 57 回岩手県商工観光審議会

2 県側出席者

商工労働観光部
政策地域部政策推進室

3 開催日時

平成 30 年 10 月 30 日（火）14：00～16：00

4 主な御意見の概要

○ 長期ビジョンについて

（観光について）

- ・ DMOのプロジェクトに係る全県での対応の方向性はこういったものか。また、観光人材の育成がキーワードであると思うが、どこで育成、トレーニングするのか。
- ・ 大船渡の商店街は、人口減少と復興特需のピークが過ぎたことで、今後、どんどん客数は減ると予測される。客数を増やすには交流人口を増やさなければならないので、5万トン級の飛鳥Ⅱくらいのクルーズ船を誘致してほしい。
- ・ 新しいことを創造していかないと観光客は戻らないと考えており、水族館など通年で人が交流するようなものがほしい。観光振興としてビジョンに謳っているが、具体的なことをしないとお客さんは戻ってこないと思う。

（人口減少について）

- ・ 人口減少は、岩手県全体においても深刻なテーマと認識しているが、特に三陸沿岸地域の人口減少率は大きく、今後ますます加速化するように感じている。その中で、人材育成や人材確保というキーワードが出てきたが、三陸沿岸道路をはじめ、高速交通網の整備は仙台圏へ人、物、金、生活を運んでいってしまうが、その対策と戦略はどのように考えているか。

（幸福について）

- ・ 幸福と持続可能性について、「幸福」と「持続可能性」は、言葉としてつながらないのではないか。このようなことをやるから幸福度を高められる、幸福度に対してはこのような考えで持続性が高い自治体、岩手県を作っていくのだというものを追加してはどうか。

（都道府県と市町村の役割について）

- ・ 都道府県と市町村の役割について、人口減少社会の中で、新たな県の姿、市町村の姿づくりが求められていると思う。確実に人口が減り、高齢者が増える中で、自治体あるいは県としてどのような姿を作っていくのかということについて、「役割」とあるが、その中身をしっかりとすべきではないか。

(プロジェクトについて)

- ・ 第6章「新しい時代を切り拓くプロジェクト」について、最も大事なのはここだと思う。県民にどういうプラン、ビジョンを示すかによって、持続可能性や幸福に対する認識が強まると思う。

特にこの中で、「北上川バレープロジェクト」について強調し、具体的に見えるような形にすることが必要である。産業集積の流れがあるので、研究都市・製造・サービスという分野を明確に出すことによってバレープロジェクトがうまくいくのではないかと思う。

- ・ 水素利用については、岩手として水素社会、低炭素社会に対してどう対応するのかということを確認に出すべきではないか。岩手の場合、研究開発もまだ薄いと思うので、研究開発から一貫して家庭まで届くような地域社会形成、低炭素社会を目指すということを確認に出した方が良いのではないか。

(各政策分野について)

- ・ 「安全」分野に、「防災」は入っているが、「防災・減災」、国は「事前防災」という表現をし始めたが、それにどう取り組んでいくのか。住民の安心・安全は最大の課題であるので、「安全」の中に「防災・減災」をどう入れていくのか。
- ・ 岩手県の大きな課題は医療問題である。簡単に言えば、子どもを産めるような環境にない。周産期医療を含め、人口減少や社会保障費の上昇等、その対応をどうするかという中で、県立病院を始めとした岩手県の医療の仕組みを含めて、医療・保健・福祉・介護は最大の課題と思っている。地域包括ケアシステムをどう構築するかによって、医療・保健・福祉・介護の一連の流れが構築されると思うので、その点についてはもっと検討を深めてはどうか。

○ 政策プランについて

(市町村との連携について)

- ・ プランの実行に当たっては、各市町村の総合計画に繋がっていないとうまく進まないと思うが、その辺のチェックはどうするのか。

(商工労働観光分野について)

- ・ 絶対的に人が足りないが、前に働いていた方が戻ってきてくれるのが一番即戦力になる。旅館業だけではなく、医師、看護師等も不足しているのだから、一度子育て等で離職した人が戻ってきやすい環境づくりをしなければならない。またネットワーク化をすると記載があるが、それを進めて、どこかにアクセスするとそのような人材がいる、ということがどの業界でも分かるようにしてほしい。

また、「自由な時間」といった記載もあるが、女性は働く時間帯が限られてくるので、午前中だけとか夜だけとかそういった働き方ができるような体制構築、そういう部分もネットワーク化されるとありがたい。

- ・ 女性の労働力確保は大きな課題。その中で待機児童問題があり、金ケ崎では企業主導型保育が進んだが、このようなものはどんどんできるようになるのか。

- ・ 待機児童を市町村任せにしないで、県としてはこういうプランでこのようなことをやるということが必要。行政区を超えて対応できるような施設はないのか。労働人口が行政区を超えて移動している段階では、働く場所に近いところで、子育てができる施設があると良いのではないかと。児童あるいは子育てに係る記載を別枠で作って、より多くの投資をしながら4つの局単位でもやるなどの対応も必要ではないかと思う。アクションプランなので、具体的なものが見えるような形で表示することが大事ではないか。
- ・ 子育て中の20代から40代の女性はワークライフバランスの「ライフ」の重きが上がる。その方たちをどう雇用するかということについて、重点的な課題として取り組んでいる企業が少ないということも聞いている。17時に帰してくれる企業がどのくらいあるか、女性のライフスタイルに対応した支援というものが、まさにこういうところだと思うし、女性活躍の認定企業をより増やすとなればそこが要点ではないかと思う。そういうデータがあれば、それを経営者に見えるようにした方が良いのでは。そこが改善されれば、女性が製造業でもサービス業でもどんどん来るのではないかと。
- ・ 今までの既成概念でものを作る時代は終わり、それに見合う人材育成をどうするかが重要。「小学校から高校までの各段階に応じ」と記載があるが、今の学校教育の中では時間がなく、できない。その中で岩手らしいキャリア教育をどうするかが問題。問題を解決する前にこの計画が進むと思うので、31年度からこのような形でキャリア教育を進める、少なくとも週に〇時間は確保するとしないと、ものづくりに対応したキャリア教育はできないと思うので、一步踏み込んで取り組んでほしい。
- ・ 南部鉄器や漆等について、国際的な対応を、今は市町村、県でそれぞれやっているが、連携してどのようにやっていくのかという売込戦略が具体化されなければ、アクションプランとしての効果はおそらくない。
- ・ 農林水産業では「いわて〇〇アカデミー」という看板で実施しているので、三陸DMOセンターの取組も「いわて観光アカデミー」という形で実施してほしい。
- ・ 外国人観光客に来ていただくために、岩手の美味しいものや綺麗なもの、景観の素晴らしいところを発信する部署をつくって、世界に発信してはどうか。
- ・ 政策項目35と36で、「観光と農林水産」に関する記載があるが、計画を作る際には、協力してつくってほしい。
- ・ インバウンドについて、プロモーションなど従来型の観光施策は通用しないので、SNS等の様々な媒体を使って、もっと企画的なものを整理しなければならないのではないかと。
- ・ クルーズ船について、宮古港に来て内陸に行ったりしているが、停泊地に泊まるなどしないと地元あまり経済効果がないというのが現実である。今のシステムを変えて、地元で経済効果があるようお願いしたい。
- ・ みちのく潮風トレイルについて、先日、旅行会社が来て「素材としては素晴らしい」となったが、環境省主導であり、リアルな旅行商品になっていない。これをリアルな旅行商品まで昇華させて、各地域でどのような形で誘客を図るか具体的な形でやらないと、今の状況では集客は見込めないかと、県主導でお願いしたい。

(社会基盤について)

- 釜石港に大型クレーンがあったが、せっかく良いことをやっているのに、もっと県民に周知してはどうか。震災以来、色々な港湾を見てきたが、活気があって良かった。
- 人が移動するにしても、観光客を誘導するにしても道路網の整備が必要である。観光客を増やすためには道路網と飛行場、さらには宮古のフェリーなどが必要である。県内くまなく対応できる道路網の整備によって効果はかなり上がると思うので、具体的な流れをつくっていただきたい。
- アクセスが観光においては一番の問題と思う。岩手は県土が広く、アクセスが十分ではないというのが喫緊の問題である。岩手県の道路建設を見ていると、道路は沢山作るが、それ以外のものが欠けているのではないか。高速では 20 キロ、30 キロ等決められた距離に応じトイレ等が設置されている。岩手県がユニバーサルデザインを標榜するなら、内容が伴うことで他県に先んじた道路を建設できると思う。国は道路は作るが+αはあまり作らない。高齢化になってきているので、新しい感覚で、トイレでも休憩所でも何でも良いので 10 キロ、15 キロの間隔で作るなど先進的な取組が必要ではないか。道路は国に任せながらも、+αは県が主導して市町村と一緒に、「岩手県はさすが」と観光客に注目されるようにお願いしたい。